第183号　令和7年11月20日発行

総合型地域スポーツクラブ
公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツくじについてはこちらから
[スポーツくじ理念広報サイト「GROWING」]
https://www.toto-growing.com/

スポーツくじ WINNER toto BIG

特別企画★安定的な財源の確保に取り組むクラブ

NPO法人Let's たるい（岐阜県）

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM183_tarui.PDF

連載★部活動の地域展開に取り組むクラブ

特定非営利活動法人地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット（東京都）

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM183_pibotto.PDF

コラム★元トップアスリートが活躍する総合型クラブ

元Vリーガー・金杉由香氏 × 総合型クラブ代表・田口嘉章氏が語る、
地域スポーツの未来

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM183_athlete.PDF

助成金情報 ▷▷▷ 詳細

お知らせ ▷▷▷ 詳細

バックナンバー ▷▷▷ 詳細

全体版 ▷▷▷ 詳細

JSPO
Japan Sport Association

特別企画

★安定的な財源の確保に取り組むクラブ★

NPO法人Let’sたるい
岐阜県不破郡垂井町

日本スポーツ協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2023-2027」で掲げる総合型クラブ育成の基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根ざし、クラブが安定的に運営されることが必要です。

そこで今回は、安定的な財源の確保に向けた取り組みを行っているクラブを紹介します。

1　クラブ運営の「今」と「これから」

NPO法人Let’sたるい（以下、当クラブ）の運営状況について正直にお話ししたいと思います。なぜなら、クラブ運営の財源を確保する活動は、現場のスタッフ、理事を含めた関係者全員が、基本理念をどれだけ理解し、意識して行動できるかにかかっています。財源確保に特効薬はなく、日々の地道な取り組みがすべてであると痛感しているからです。

新施設の指定管理受託と「本来の使命」との葛藤

当クラブは令和6（2024）年4月、新施設「ワイワイプラザ垂井」の指定管理者を受託し、業務が倍増しました。この施設は「まちづくりセンター」との複合施設であり、地域づくりの機能が期待されています。行政、地域の方々、当クラブの三者が協働し、地域の活性化や諸問題の解決に取り組む役割を担っていると考えています。

しかし、こうした「クラブの本来の使命」とも言える考えが明確になったのは、20余年の活動のなかでもここ数年のことです。基本理念は、各スタッフに浸透しつつある過程（途中）というのが現状です。

当クラブの基本理念は、「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」です。地域の皆さんと一緒にスポーツや文化活動を通じて交流を深め、誰もが安心して暮らすことができる持続可能なコミュニティづくりをめざしています。

この基本理念について、会員や地域の皆さんに十分な説明ができているとは言えません。当クラブの「会費」の意味を正確に説明できるようになったのも、恥ずかしながら数年前からのことです。

ワイワイプラザ垂井正面

会館受付（左・まちづくりセンター／右・当クラブ）

「手段」が「目的」になっていた過去

かつては、創設時の役割だった各サークル活動のお世話や補助金を財源にしたサークル活動のご支援、指定管理施設の維持管理・貸館業務などが中心になっていました。この背景には、本来の使命を強く意識できないまま、助成金を使ったイベント開催やスポーツ・文化活動の提供（教室運営など）に満足していた現状があったのです。

もちろん、スポーツや文化を享受する場や機会を創出・提供すること、指定管理業務も重要な役割です。しかし、クラブの成熟段階によって「ありたい姿」は異なりますが、クラブ運営を先導する者は「何のためにクラブを運営しているのか」その役目・役割を明確に意識しなければ、「手段」が「目的」になってしまう危険があると考えます。

これからご紹介するクラブとしての自主事業について、スピード感を持って実行できているのか、精いっぱいの活動ができているのか、そして、その趣旨が参加者に伝わっているのか、と自問自答する毎日です。

幸い、この新施設の設置目的と当クラブの公益活動目的は一致しており、行政の担当所管にも当クラブの活動趣旨をご理解いただいています。この地域のにぎわいと発展に向け、スタッフが「ひとつのチーム（ONE TEAM）」として、毎日、体力的にもギリギリのところで頑張っているのが事務局の現状です。

クラブの概要

活動内容

【公益目的事業】
スポーツ系教室運営：12教室、ダンス系教室運営：11教室、キッズ運動教室：10教室、親子（幼児）：１教室、一般スポーツ系運動教室：8教室、一般ヨガ教室：6教室、高齢者向け貯筋運動：5教室、サークル会員活動：13サークル、文化活動教室運営：3教室

【受託事業】
垂井町介護予防事業（委託事業）、関ケ原町スポーツ教室（キッズ・親子）（委託事業）

【指定管理施設の管理受託】
ワイワイプラザ垂井（2階建）旧庁舎跡地に令和6年4月竣工（ホール309㎡100名収容／軽運動室2室／会議室3室／和室／オープンキッチン・調理室）

【自主事業活動】
ワイワイプラザ垂井・カフェスペースにおける飲食（ランチ）の提供、地域交流ファンクラブイベント、子育て支援活動、障がい者支援活動、ノルディックウォークイベント、ノルロゲウォークイベント、その他 イベント、指定管理施設を利用した指定管理者としての自主事業活動

【事務局体制】
クラブマネジャー：1名（常勤）、事務局スタッフ：3名シフト制、カフェスタッフ：2名シフト制

2 2つの自主事業の連携と拡大

「ありたい姿」から考える財源確保

「財源確保にどれだけ取り組んでいるか」という問いに、「何ができていないか」を明確に回答できるクラブマネジャーがどれほどいるでしょうか。会費を値上げしないと厳しい、スタッフの給与が低い、イベントのスタッフがいない、教室の参加者が少ない……悩みごとを話せば切りがありません。

私たちも同じでした。しかし、「ありたい姿」を明確に意識し、実現のためのアクションプランを考え始めたとき、やれることは無数にあることに気がつきました。失敗も多かったですが、チャレンジ精神が湧き上がってきたのです。

指定管理は「手段」

指定管理施設を受託できれば、本当に財源は確保できるのでしょうか。指定管理者制度の趣旨は、民間の知恵で効率的な施設管理と地域の活性化を図り、財政圧縮にも貢献することです。

つまり、施設を拠点として「どのような公益目的事業が展開できるのか」という青写真なく受託してしまうと、行政業務の代替的な役割や従来の教室運営業務が中心となり、本来の公益活動が展開できなくなる可能性があります。

私たちは、指定管理を「手段」としてとらえ、法人の公益活動と連携させた自主事業の取り組みに意識してチャレンジしています。

1.カフェ運営（交流拠点の創出）

当クラブは、施設内に設計されたカフェの運営に手を挙げました。理由は、飲食店に賃貸すると、注文せずに誰もが自由に利用できる「サロン」的なスペースにはならないからです。

現在は、ドリンクのほかに手作りランチなども提供し、「にぎわいづくり」の交流の場とするとともに、公益活動の財源確保の一つの手段としています。利益の一部は指定管理者収入として計上し、指定管理料の圧縮にも貢献しています。

そして何よりも、このスペースを「子育て支援」などにも活用しています。昼食付きで子どもさんたちを一日預かって、運動やクラフト体験を実施したり、月1回、親子で参加できるイベント「わいわいの森」を開催したりしています。

親子で参加できる「わいわいの森」

2.交流人口の創出

さらに、交流人口・関係人口を創出するため、「地域交流ファンクラブイベント」や「ノルロゲウォークイベント」を実施しています。カフェスペースで双方の市・町の特産物を紹介するなど、地域交流を通じてお互いの地域のファンをつくる試みにチャレンジしています。

これらの活動は、「人と人」「人と社会」をつなげる環境づくりであり、市・町の活性化をめざす取り組みです。その先には、地域の皆さんと一緒に「地域に貢献する意義」や「支え合う役割」を社会に訴えていきたいという思いがあります。

ウォークイベント「垂井ノルロゲ」

3 委託事業と自主事業を関連づけた事業拡大

介護予防事業

当クラブは「貯筋ステーション」認定団体として、貯筋運動教室や体力測定を実施してきました。「高齢者の介護予防には、運動と効果を測定する体力測定のセットが必要であり、結果のフィードバックが本人のモチベーションにつながる」ことを行政に説明し、管理栄養士による食の改善なども含めた総合的な介護予防委託事業を受託しました。

現在、行政と連携して育成した「介護予防リーダー」を地域のサロンやまちづくりセンター、レクリエーション活動の場へ派遣しています。これにより、地域の高齢者の健康づくりを担うクラブとして、地域に周知されつつあります。

健康フェスタ

「支援される側」から「役割を持つ側」へ

この取り組みの重要な点は、リーダー自身も高齢者の場合があり、「自分ならではの役割」を持つことで、地域におけるご自身のアイデンティティが確立され、それが地域愛や地域貢献意識、自立心につながることをあらためて認識した点です。

高齢者や障がい者など、いわゆる社会的弱者は「支援される側」として受動的にとらえられがちです。しかし、「誰かの役に立っている」という地域への愛着や自己のアイデンティティを意識できる機会を提供することが、自己肯定感を高めます。そして、互いに支え合い協力し合うことで地域の絆を培い、地域社会の発展に寄与すると考えています。

この取り組みは、他団体との連携や会員増加にもつながるなど、大きな影響がありました。もちろん、エビデンスに基づいたプログラム開発や講師の確保、リーダー育成など課題は山積しており、現在も行政担当者と一緒に果敢にチャレンジしている最中です。

葛藤と活動を支えるもの

以上、私たちが迷いながら取り組んできた活動の一部をご紹介しました。 財源確保のためには、公益法人としての基本理念を具現化することを強く意識し、単発のイベントや教室運営、施設管理業務に満足・忙殺されるのではなく、自分たちの「ありたい姿」を関係者や地域の皆さんと一緒に取り組んでいこうとする思いが何よりも大切だと思います。

私たちも悩み、葛藤しながら試行錯誤の毎日です。失敗して落ち込むこともあります。それでも頑張れるのは、皆さんの温かい感謝のことばや笑顔です。ぜひ、皆さんとの連携の機会があれば幸いです。

4 課題と手応え

活動の難しさと、陥りやすいワナ

当クラブの活動を「公益活動」として理解してくれる人ばかりではなく、理不尽な言動にスタッフと悩むことも多々あります。活動の趣旨を理解していただく努力が、まだまだ不足していると反省しています。

繰り返しになりますが、運動プログラムの提供やイベントの実施をゴールととらえ、「イベントに多くの人が参加したこと＝事業の成功」と勘違いすることが、財源確保の取り組みの大きな障害になると気づきました。

官民連携の課題

現在、新施設の管理受託2年目で業務に忙殺されながらも、施設の公益性・公平性を重視し、住民が主体的にまちづくりに取り組む拠点として、気軽に立ち寄れる「場のデザイン」構築に取り組んでいます。

しかし、官民連携事業の趣旨が行政担当者や地方議員の方に理解されず、指定管理者としての自主事業と、法人としての公益的な自主事業の区別が曖昧（あいまい）になったり、指定管理料が適切に設計されずに運営が苦しくなったりする課題も全国で散見されます。

行政とのパートナーシップ構築

当クラブは、幸いにも施設の設計段階から行政と関わることができました。行政には何度も当クラブの基本理念と実行計画を説明し、本当の意味でのパートナーシップ構築がスタートしたと実感しています。登録・認証制度の登録クラブとして認定されたことにも背中を押されました。

指定管理の受託は、人件費の軽減や拠点確保の面で有利ですが、一方で行政スリム化の「受け皿」となり、行政業務の代替に追われて本来の活動ができなくなる危険もあります。だからこそ、行政としっかり話し合い、地方自治体の政策を包含する事業計画を立てるとともに、クラブとしての基本理念を再認識して、地域の皆さんへ説明し続けることが何よりも大切だと感じました。

5 クラブの今後の展望

主体的な地域づくりの担い手へ

今後の目標は、地方自治体のコミュニティ政策の実現に向け、具体的な活動をアクションプランに落とし込むことです。

行政主導・行政依存の公的サービスから脱却し、自分たちの生活や生きがいを自ら創り出し、地域の皆さんとともに「主体的な地域づくりの担い手」になれる活動を展開できるように努力してまいります。

具体的には、

1.高齢者にとっての活躍の場、仲間と支え合い笑い合える場づくり。

2.保育園前の子育てに不安を抱える親御さんのサポート。

3.学校と地域社会が連携し、高齢者と子どもたちが交流できる、相互に信頼できるまちづくり。

です。

地域の「安心」をデザインする

人と人とのつながりが希薄になりがちな今、同世代・多世代が交流し、話すことができる場があることで、ともに助け合い、地域の子どもたちを地域で見守り育てる意識を醸成したいと願っています。

地域での交流がこころを豊かにし、人に優しくできる垂井町のまちづくり。それが当クラブのミッションの一つです。

そのためには、持続可能な人的組織と財政基盤の強化、行政やまちづくりセンター（まちづくり協議会）との協働、そして社協や各種スポーツ団体など、多様な地域の諸団体と相互補完的な関係を構築することが重要です。

企業のCSR活動とも連携できるよう地元企業との信頼を築き、若者や女性にも選ばれる多様な価値観を受け入れた活動にも注力します。地域資源を見直し、当クラブが創出できる付加価値を考える取り組みと、その具現化の一歩一歩が、財政基盤の強化につながると信じています。

連携の呼びかけ

現在、岐阜県内3つの地域・クラブ、そして秋田県湯沢市のクラブとも交流を推進しております。ご興味のあるクラブ様がいらっしゃれば、ぜひご連絡ください。

地域で楽しく、安心・安全に暮らせる持続可能な社会の実現に、力を合わせて一緒に創ってまいりましょう。

NPO法人Let'sたるい理事　遠藤 誠
クラブマネジャー　波賀野里美

子ども韓国料理教室

クラブプロフィール

設立年月日	平成15(2003)年4月29日(平成25年2月22日法人登記)
所在地	岐阜県不破郡垂井町1532-1　ワイワイプラザ垂井内
運営	会員数:729名(令和7年10月現在)、予算規模:5,200万円(平成7年度)
連絡先	住所:〒503-2121 岐阜県不破郡垂井町1532-1　ワイワイプラザ垂井内 TEL:0584-22-0139　FAX: 0584-22-0139 HP:http://lets-tarui.or.jp E-mail:sa-hagano@lets-tarui.or.jp

★本記事の読み上げ動画を作成しました！
忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください！
動画はこちら➡https://youtu.be/7nTMWd9eV6k

過去の動画はこちら

連載

★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ★

特定非営利活動法人
地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット
東京都大田区

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足などにより、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和５(2023)年から令和７(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブの取り組みを紹介します。

1　クラブ概要

スポーツを通じた人づくり･街づくりをめざし設立

平成14(2002)年東京都大田区の地で、幅広く独自のスポーツが行える環境とその運営を行い、スポーツという美しいものを通じて、生活の充実、素晴らしい人間性の形成、多くの交流が生まれる場づくりと、スポーツの振興と文武両道およびスポーツを軸にした街づくりや地域振興をめざし発足しました。

令和7(2025)年3月末現在の会員数は863名、18種目66教室を展開し、延べ教室実施回数は年間2,268回、延べ参加人数は20,340名です。

【主な教室事業】

バスケットボール教室(大田区内8会場)※小中学生から高校生以上の教室
チアリーディング教室(大田区内4会場、760教室)
リズムダンス教室(大田区内3会場、432教室)
ラグビー教室(大田区内8会場、189教室)
そのほか、かけっこ教室、機能改善体操教室、ヨガ、学習支援教室などを手がけています。

バスケットボール教室（U15蒲田高校教室）

チアリーディング教室（雪谷教室）

ラグビー教室（大森教室東京ガス大森グラウンド）

事務局は大田区西馬込の事務所を拠点に、6名の社員と、羽田地区のヤマトフォーラム（体育館）に10名程度のパートアルバイトを配置しています。

【組織運営】

①総合型地域スポーツクラブの教室事業

社員4名が専従しています。社員の多くは、教室事業の講師も兼任しており、当法人の事務業務に加え、各自の種目の講師としても活躍しています。

②ヤマトフォーラム（体育館）の指定管理業務

③学校部活動指導員派遣業務と関連する管理業務

令和6（2024）年度より、大田区教育委員会から委託されています。

ピボットフットは20年を超える大田区内でのスポーツ教室の実施実績と、桑田健秀理事長の長年のスポーツ行政への関わりから、ジュニア世代のスポーツ環境の整備と、地域のなかで育まれ成長していく環境整備のため、尽力してまいりました。

昨年度以来の学校部活動指導員派遣業務において、地域展開に向けた推進と都市型ならではの地域課題解決のため、地域のステークホルダーと連携しています。

2 取り組み内容

大田区のモデル事業として派遣をスタート
教育委員会管理のもと、指導員は教員と同等の立場で指導を行う

大田区立の中学校は28校あり、約11,000名の生徒が在籍しています。部活動はおおよそ280部が活動しており、令和6(2024)年度より、モデル事業として指導員派遣をスタートしました。ピボットフットからは、令和7(2025)年度に7校27部11種目に指導員を派遣しています。

指導員は、平日は15:30から18:30と休日は4時間程度、週20時間の部活動の指導を行っています。また、校外で行われる試合への引率や監督も担当しています。学校部活動を教員同等の立場で指導を行うため、文化祭や運動会、生徒会行事など学校業務内容を理解して学校の意向に沿った形での部活動を行い、大田区教育委員会の管理下で進めています。

部活動指導員の謝金や、管理部門への予算は、すべて教育委員会の予算によりまかなわれています。指導員30名のうち、8割が地元出身者であり、競技団体出身のキャリア指導者です。特にバスケットボールは、大田区に男女のプロチームがあり指導員の連携を行っています。

「やってみたい」に応える指導、制約のある環境への対応など
部活動指導員に求められる多角的な役割とサポート体制

指導者の競技スキルはもちろんのこと、中学生世代とのつながりが重要です。部員の大多数が「競技をやってみたかった」「友人と一緒に部活をやりたい」との動機から入部しており、新入部員は、毎年5月上旬の本入部ののちに確定するため、指導者の配置数にも予測が必要です。

学校部活動であるため、活動場所はグラウンドや体育館など学校施設で行います。学校部活動は生徒の「やってみたい」に応える場として有効であり、競技者の入り口として重要な活動であることを再認識しています。

また、学校部活動は、限られた時間帯に多種目が混在して活動するため、良質な環境の提供が課題となっています。一例として、ある学校では体育館を、バドミントン部、男女のバスケットボール部が共有している日もあり、バスケットボール部は体育館の4分の1ほどの狭いところで練習しています。安全管理に注意を払うことはもちろんのこと、練習内容を工夫しながらの指導に当たっています。

大田区は地域によって特色があり、全校生徒が200名の学校や、1学年の生徒数が230名の学校もあり、部員の数もさまざまです。一部の競技では学校単位で人数がそろわず、他校との合同練習、合同チームを必要としています。合同チームの場合、平日は少人数で自校にて活動し、休日は拠点校に集合して練習を行っています。

部員の引率や、大会参加時の監督の問題など、学校間で調整することも多く、単校だけで解決しない問題にも取り組んでいます。指導者として競技の技術だけを指導することではなく、スポーツを通じたルール、マナー、エチケット、スポーツマンシップの指導など、生活面に及ぶ指導も求められます。そのため、指導員を孤立させない管理組織を設置して学校・保護者との円滑な連携と活動体制を構築しています。

3 部活動指導における組織的な課題解決アプローチと実践事例

部活動指導員派遣業務において、組織で課題解決する体制をとっています。

各学校の部活動の様子を定期的に視察するため、地元出身のスタッフに「巡回管理者」をお願いしています。巡回者は、部活指導員の指導状況の確認や、学校や保護者とのコミュニケーションを行い、指導員へフィードバックしています。そのなかでいくつかの事例がありましたので、ご紹介させていただきます。

選手の食生活に着目し、「栄養学講座」開催で体力・技術向上を実現

部員の体力の強化について、女子バスケットボール部の指導員は、生徒の指導に当たり、腹痛や生理痛での欠席や見学、体力の低下について、生徒の摂取する「食事の量」について疑問に思いました。学校での「食育」などで栄養管理については学習しているものの、夜型の生活習慣や、スタイルを気にする世代であることから、アスリートとしては一度の食事量が少ないことに気づきました。ピボットフットとしては、組織的に対応するため、「ジュニアアスリートの栄養学講座」と題し、学校長に企画提案、管理栄養士にお願いして、体育館競技の部員と保護者にご出席いただき、講座を開きました。予想した通り、部員の反応は良く、「一日にこんなに量を食べていいんだ！」と驚きの反応でした。食事の講習4カ月後には、女子バスケットボール部の選手は体力も向上し、学校内のマラソン大会でも上位を占める結果となり、体力の向上は、練習の質の向上にもつながり、技術面の成長にも好影響を与えました。

令和6年10月に開催した学校部活動ジュニアアスリートの栄養学講座は、生徒、保護者150名が参加した

生徒の自主性が生んだ、保護者との練習試合という新たな交流

また、ある学校では、PTAのママさんバレーボールのチームが子どもたちの練習に加わり練習試合も行いました。そのきっかけは、指導員が生徒による自主的な部活の運営を進めていくなかで、保護者が、子どもが毎回楽しそうに部活動の話をする様子を聞いたり、練習試合を見学したことで、「一緒にやりたい」という声が上がったそうです。

学校部活動は、地域コミュニティの「核」となる存在です。生徒や先生、指導員だけで行うものではなく、地域の保護者の協力や参加、地域のステークホルダーの協力が必要です。事務局としては、地域との関わり方をブレイクダウンして、丁寧にゆるやかに展開していくことをめざしています。

4 いつでも、だれでも、だれとでも。都市型モデルとして地域と共に創るスポーツの未来

学校部活動を起点に、ジュニア世代のスポーツ環境と地域の関わりについて緒についたばかりです。都市型モデルの先駆けとして、この事業の成功のために、すべてのステークホルダーと連携していきます。

「スポーツ活動の場」として、大田区には28校の公立中学校と59校の公立小学校があり、放課後の学校施設を有効に活用するため、利用状況の把握と、地域の利用団体との連携、総合型地域スポーツクラブが本来持つ「多世代・多種目」交流の場を進めていきたいと思います。

また、令和7(2025)年度からは、学校開放事業の運営と調整業務のモデル事業も受託して、中学校部活動と関連した施設の有効活用と地域連携をめざします。

学校部活動の地域展開については、長年の課題でありました。スポットで指導員を派遣することは以前にもありましたが、学校内で運営を行うことの難しさを痛感しています。

スポーツクラブからのアプローチだけではあまり及ばなかった点もあります。中学生世代がスポーツに興味を持ってくれて体験したいという純粋な気持ちは大切にしていかないといけないと思います。いつでも、だれでも、だれとでも、スポーツを通じてつながり、共感し、高め合うことのできる環境整備に、尽力してまいります。

特定非営利活動法人地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット　副理事長　細貝 充

クラブプロフィール

設立年月日　平成14(2002)年12月16日(平成14年12月16日法人登記)

所在地　東京都大田区中馬込1-1-17 504

運営　会員数:863名(令和7年3月現在) 予算規模:163,000千円(令和6年度)

特徴
- 「地元に根差した、通いやすい教室」 職員は地元出身／区内施設で66教室を展開
- 「やってみたくなる教室の提供」 幼児のチアリーディング教室／バスケットボール教室
- 「コミュニティ重視の教室」 機能改善、ヨガ教室は生徒との交流を重視
- 「地元に愛されるクラブ」 大田区内のイベント出演、年間90回超
- 区内に点在する、スポーツ関連団体をリエゾンしハブの役目を担うクラブ
- 大田区の産業、文化、観光とも深くつながりを持つクラブ

連絡先　〒143-0026 東京都大田区西馬込2-31-3-103
TEL:03-3776-5113　FAX:03-6869-9436
HP:https://p-foot.jp/
E-mail:contct@p-foot.jp

YouTube

元トップアスリートが活躍する総合型クラブ

対談

「“楽しい”が最強の指導法」

元Vリーガー・金杉由香氏 × 総合型クラブ代表・田口嘉章氏が語る、地域スポーツの未来

Vリーグ選手として活躍した金杉由香氏が、引退後に選んだのは総合型地域スポーツクラブでの指導者の道だった。

引退アスリートの豊富な経験と知見が、地域コミュニティの子どもたちの可能性を広げ、スポーツの楽しさを再定義する。金杉氏の活動は、アスリートのセカンドキャリアの理想的なモデルケースとして、大きな価値を持っている。

プロの視点とは何か。アスリートのセカンドキャリアの理想形とは。そして、スポーツが地域にもたらす本当の価値とは——。

埼玉県白岡市の総合型スポーツクラブ「白岡Sport-Verein」クラブ代表の田口嘉章氏とともに、トップアスリートの経験が地域スポーツに何をもたらすのか、その可能性について語り合った。

金杉由香（かなすぎ・ゆか）

埼玉県出身の元Vリーグ（バレーボールのトップリーグ、現・SVリーグ）選手。1995年６月16日生まれ。強豪・八王子実践高等学校（東京）を卒業後、2014年にJTマーヴェラス（現・大阪マーヴェラス）に入団。アウトサイドヒッターとして活躍し、その後ヴィクトリーナ姫路（2018-21）、KUROBEアクアフェアリーズ（2021-22）と、Vリーグの第一線で約8年間にわたりプレーした。Vリーグのサーブ賞をはじめ多数の個人賞を受賞している。2022年に現役を引退。多くのアスリートが悩むセカンドキャリアとして、「地元・埼玉への地域貢献」という道を選び、現在、白岡Sport-Vereinに籍を置き、白岡市立篠津中学校女子バレーボール部の指導を週に２回ほど行っている。

田口嘉章（たぐち・よしあき）

総合型地域スポーツクラブ「白岡Sport-Verein」代表。白岡市出身・在住。白岡市役所に勤務し、少年団と子供会を両方立ち上げ、学校開放（体育館の一般利用）の仕組みも導入。一方、20歳ころから始めた少年団のサッカー指導はボランティアとして継続。さらに50代半ばで総合型クラブを創設し、市役所を定年退職した後は、正式にクラブマネジャーに就任。「人とのつながり」を何より大切にし、Jリーグの村井満元チェアマンにも直接会いに行き、講演会を実現するなどその行動力と地元愛あふれる人柄で、現在は、下は5歳から上は80代までを対象に14以上の教室を運営。情熱と企画力で、白岡市のスポーツコミュニティをけん引し続けている。

テーマ❶元アスリートがクラブ指導者になるとは？

元Vリーガーと地域クラブ、市役所がつないだ「幸運な」出会い

司会：まず、金杉さんが総合型クラブの指導者になった経緯を教えてください。

金杉：2022年の現役引退後は出身地である埼玉県に戻りました。現役時代から引退後は、自分がこれまでバレーボールで経験したことを伝えたい、個人レッスンなどを通じて地域貢献をしたいと考えていました。

　その思いがあったので、白岡市に住み始めたタイミングで市役所に相談に行ったところ、「こういうクラブがあるよ」と田口さんをご紹介いただきました。私自身、中学時代にクラブチームに所属していたのでもともと興味がありましたが、田口さんからお話を伺うと「すごい夢がある場所だな」と感じ、ぜひやりたいとお返事しました。

司会：田口さんは、バレーボールトップリーグであるVリーグを経験した選手から指導の申し出があったとき、どう思われましたか？

田口：もう「めちゃくちゃラッキー」ですよ（笑）。　クラブの理事でもあるスポーツ推進委員の会長から紹介されたのですが、引退してまもないトップアスリートが地元にいること自体が奇跡的なことだと。うちのクラブはドイツモデルの「多種目・多世代・多志向」が理念で、子どもたちにスポーツを「楽しんで」もらうことを第一にしています。実は過去にバレーボール少年団で勝利至上主義にはしり、子どもたちがバレー嫌いになって辞めてしまった苦い経験がありまして……。

金杉：「楽しむ」という理念は、私も強く共感します。

田口：ですから、もう即決で「お願いします」と。実際に金杉さんを生徒たちに紹介したとき、子どもたちの「目」が明らかに違いました。「憧れ」の選手が目の前にいて、教えてくれる。その真剣なまなざしを見て、クラブの雰囲気が変わると確信しましたね。

金杉：ありがとうございます。私自身も、Vリーグ時代に「やればやるほどうまくなる」という長時間の練習に疑問を感じ、いやいやプレーしたこともありました。やはり「楽しくないとスポーツはうまくならない」と実感しています。その思いを、このクラブで実践できることがうれしいです。

バレーボールのトップリーグ「Vリーグ」で活躍していた現役時代
（写真／月刊バレーボール）

テーマ❷現在のクラブの変化や気づき

「これがプロの指導か」クラブ代表が驚いた、“言葉”の壁に挑む元アスリート

司会：田口さんは、金杉さんの指導を間近で見て、驚いたことはありますか？

田口：驚きの連続ですよ。いちばん印象的だったのはサーブです。ある中学生が全然サーブが入らなかった。そしたら金杉さんが寄っていって、トスの位置や腕の準備の早さについて、的確にポイントを教えていたんです。

たった5、6回ですよ。ちょっとアドバイスしただけで、ビシッと入るようになったんです。その子も「入った！」って大喜びで、もうみんな集まってきちゃって（笑）。　さすがポイントを熟知している。「これがプロの指導か」と感動しました。

技術的な面以外でも、選手の可能性を見抜く目も違います。「あの子、まだ10cmは高く跳べますね」とか、我々では見えない一人ひとりの可能性が見えている。

金杉：（笑）。　いやいや技術的なところや選手の体力的な部分はこれまでの経験からアドバイスできると感じていることも多いのですが、指導し始めて「壁」だと感じているのは言葉です。選手時代、最年長やキャプテンとして後輩に指導する機会は多かったのですが、「指導者」として現場に立つと、また違う難しさがあります。

田口：言葉、ですか。

金杉：はい。自分がわかっているニュアンスを、そのまま伝えても子どもたちには響かない。小学生にはこの言葉は通じない、高校生ならわかるとか。その言葉をどう「組み替えて」伝えるか、どう「考えさせるか」が本当に難しく、今いちばんの課題です。指導者になって初めて、昔の監督が言っていたことの意味がわかるようになりました（笑）。

やはり、年代ごと、生徒一人ひとりの個性に合わせた「言葉のチョイス」がいちばん難しいです。

司会：例えば、周りの元アスリート仲間で、指導者になった方とは情報交換されますか？

金杉：はい。よくします。そこで出てくる言葉は「選手のときと違って、指導って難しいね」ばっかりです（笑）。

実は、私は今、指導したときの生徒のアプローチや反応、どう伸びたかを毎日データで書いているんです。自分が成長しないと、子どもたちを伸ばせないので。日々勉強です。

田口：子どもたちもその姿を見ていると思いますよ。

テーマ❸今後の展望

夢は「小中高一貫」指導。“好き”のバトンをつなぎ、地域とバレー界に恩返しを

司会：田口さん、金杉さんとこれから一緒にやっていきたいことは何ですか？

田口：夢は「小中高一貫」の指導体制をつくることです。今の部活動は学校ごとに分断されていて、指導者もバラバラ。せっかく金杉さんのような素晴らしい指導者がいるのですから、小学生から高校生まで、一貫して「楽しいバレー」を教わることができたら、子どもたちはどれだけ幸せか。

金杉：私も自分が子どものころにプロ経験者に教わっていたら、と考えるとワクワクします（笑）。

田口：そうですよね。そしていずれは、その教え子たちが大人になって、今度は指導者としてこのクラブに帰ってきてくれる。そんな「循環」を白岡市につくることが、クラブとしての最大の地域貢献だと考えています。

金杉：なるほど。私自身も埼玉県という地元に戻り、今は指導者として歩み始めています。私の目標は、まずは私自身が指導者として成長すること、そのうえで、夢は「バレーボールが好きなままでプロになってくれる選手」を育てることです。

田口：素晴らしい。

金杉：昔ながらの「やればやるほど」という指導法ではなく、自分で「考え」、スポーツを「楽しむ」という私の指導法で育った選手が活躍してくれたら、それが地域と、私を育ててくれたバレーボール界へのいちばんの「恩返し」になると思っています。

生徒たちの目線でスポーツを楽しむ指導を。金杉さんの挑戦は続く

それぞれからのメッセージ

【元Vリーガー 金杉由香】

「指導者」は、幸せなセカンドキャリア。引退後を悩む選手に知ってほしい

引退後、進む道を悩む選手は多いと思います。私自身もそうでした。ですが、今、地元に戻って指導者として活動し、「幸せです」と断言できます。現役選手は、地域と密着した「総合型クラブ」の存在をほとんど知りません。しかし、自分が培った技術や経験を、目を輝かせて聞いてくれる子どもたちに伝えられることは、選手時代とは違う、大きなやりがいと喜びに満ちています。悩んでいるアスリートの皆さんには、地域に貢献するという、この素晴らしいセカンドキャリアの選択肢をぜひ知ってほしいです。

【クラブ代表 田口嘉章】

元アスリートの採用は「間違いない」。地域クラブは一歩踏み出すべき。

元アスリートの指導力は「間違いない」です。彼ら彼女らは、我々では気づけない視点を持ち、何より子どもたちの「憧れ」です。子どもたちは目が輝き、練習の密度が変わります。 今、多くのアスリートがセカンドキャリアに悩み、同時に、多くの地域クラブが専門指導者不足に悩んでいます。これはマッチングの問題です。うちのクラブには、元プロ選手が3名（バレーボール、バスケットボール、サッカー）いますが、もっと多くのクラブが「受け皿」になるべきです。ぜひ、地域の元アスリートに声をかけてみてください。クラブも子どもたちも、必ず変わります。

総合型地域スポーツクラブ「白岡Sport-Verein」（しらおかシュポルト・ファーアイン）

2002（平成14）年にサッカー少年団を母体に設立されたNPO法人の総合型地域スポーツクラブ。幼児から高齢者まで、誰もが気軽にスポーツや文化を楽しめる地域づくりをめざしている。

サッカーやバスケットボールに加え、ヨガ、太極拳など「多種目・多世代・多志向」の活動を実践。スクールやイベントを通じ、青少年の健全育成や住民の健康増進、世代間交流に寄与し、地域に根ざした自主運営クラブとして活動中。

白岡市では、2024（令和6）年11月から市内中学校の週末等の部活動が地域クラブ化され、すべての地域クラブを白岡Sport-Vereinが運営している。このうち、派遣する指導者の約85％は在住・在勤の指導者で、金杉氏をはじめ3名のトップアスリート（バレーボール、サッカー、バスケットボール）が指導に当たっている。

助成金情報

ノエビアグリーン財団2025年度助成事業

[実施団体]（公財）ノエビアグリーン財団

日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、青少年の健全な育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

[申請資格]

●団体

児童、青少年の健全育成の向上を目的とした体験活動、およびスポーツの振興に関する事業を積極的に行っている団体。

●個人

将来、世界大会やオリンピック、パラリンピック出場等をめざすアマチュアスポーツ選手（18歳以下）。

[助成対象期間]

2026年6月1日～2027年5月31日（1年間）

[申し込み期間]

2025年12月1日（月）9:00～2026年1月15日（木）正午（12:00）

団体と個人で応募できます。詳しくは、以下のホームページをご確認ください。

https://www.noevirgreen.or.jp/grants/

お知らせ

●日本スポーツ協会情報

令和7年度生涯スポーツ功労者の表彰式が行われました！

国による生涯スポーツ功労者表彰は、地域または職域におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献し、地域におけるスポーツ振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者を表彰するものです。

今年度は生涯スポーツ功労者153名、生涯スポーツ優良団体100団体の表彰が決定しました。総合型地域スポーツクラブ育成指導者として、日本スポーツ協会から9名を文部科学省へ推薦し、「生涯スポーツ功労者」として決定されました。

生涯スポーツ功労者一覧については下記URLを参照ください。
https://www.mext.go.jp/sports/content/20251017-spt_oripara-000044746_000.pdf

スポーツリスクマネジメントセミナーを開催します！

地域スポーツ活動にはさまざまなリスクが存在しています。信頼されるクラブ運営を行うためには必要なリスクマネジメントに関しての視野を広げ、クラブに関わる保護者側の視点も知ったうえで、適切なリスクマネジメントを行うことが重要です。そこで、日々のスポーツ活動における安全・安心な活動に向けた適切なマネジメントの実現を目的とし、
「スポーツリスクマネジメントセミナー
学校部活動の地域展開において地域スポーツクラブに求められること―保護者との関わりに焦点を当てて―」
を開催いたします。多くの皆さまのご参加をお待ちしております！

なお、本セミナーはクラブマネジャー資格も含めたJSPO公認スポーツ指導者資格の更新研修対象となります。

▼詳細はこちら
イベント・セミナー情報 -JSPO

■日時：令和7（2025）年12月9日（火）16:00～19:35
■主催：公益財団法人日本スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会
■支援団体：公益財団法人スポーツ安全協会
■協賛：三井住友海上火災保険株式会社
■開催形式：オンライン配信（Zoomウェビナー）
■申し込み期限：令和7（2025）年12月2日（火）12:00まで
■参加料：無料
■定員：1,000名（先着順）
■申し込みフォーム
下記URLからお申し込みください。
https://forms.office.com/r/NHGgkJSsEP

＜本件に関する問い合せ先＞
公益財団法人日本スポーツ協会　地域スポーツ推進部　クラブ育成課
TEL：03-6910-5815　Email：sc-info@japan-sports.or.jp